

COVID-19 に対する各大学の対応と生理学及び薬理学教育
への影響に関する緊急合同調査

全国アンケート結果報告の概要（生理学会用）

実施期間：2020/8/26~2020/9/15

日本生理学会教育委員会
集計担当：下川哲昭、南沢享

下線はアンケートの質問を示します。 「 」は回答の選択肢を示します。

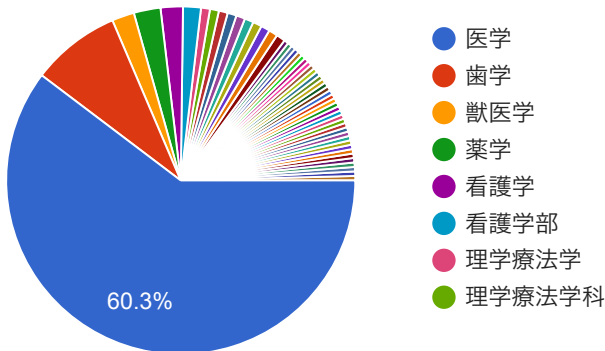
- ✓ アンケートの回答総数は、242 件であった。
- ✓ 回答総数が書いていないものについては、242 件の回答数である。

1. 所属・担当科目等について

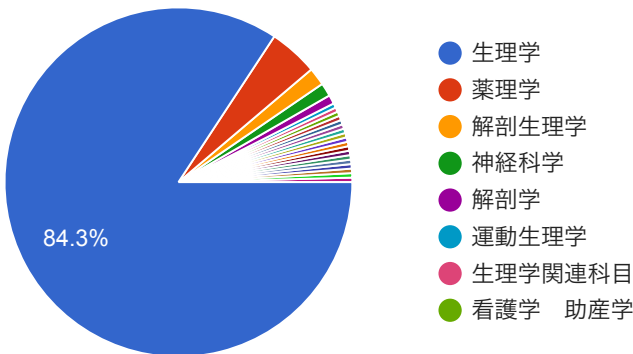
1-1 回答者の所属する大学において、同一大学から複数のアンケート回答者が多かった大学は、

- 1. 東京医科大学 : 8 件
- 2. 鹿児島大学 : 6 件
- 3. 愛知医科大学 : 5 件
- 東京慈恵会医科大学 : 5 件
- 東邦大学 : 5 件

1-2 主に担当する学生の所属は、60%が「医学部」、8%が「歯学部」で両学部で7割弱を占めた。



1-3 主に担当する科目は、圧倒的に「生理学」が多く (84%)、次いで「薬理学」の5%であった。

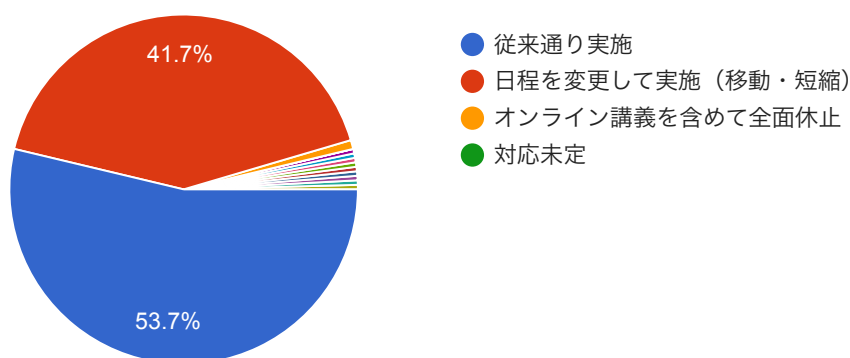


1-4 教育における立場として、「担当科目の責任者」が6割弱（58%）で「担当科目の講師」が4割（41%）であった。回答者はほぼこのどちらかの立場であった。

2. 講義（実習以外）の実施状況について

2-1 昨年度（2019年度）の講義の実施時期を回答した242件中、多かったのは、

「4月～」136件（56%）、
「6月～」23件（10%）
「9月」22件（9%）
「5月～」17件（7%）、
であった。



2-2 講義の実施期間を変更したか？について、「従来通り」との回答が54%、「日程を変更（移動や短縮）して実施」したが42%で半々であった。

2-3 「日程を変更して実施」を回答した107件中、多かったのは、

「5月～」47件（44%）
「4月～」33件（31%）
「6月」15件（14%）

であった。

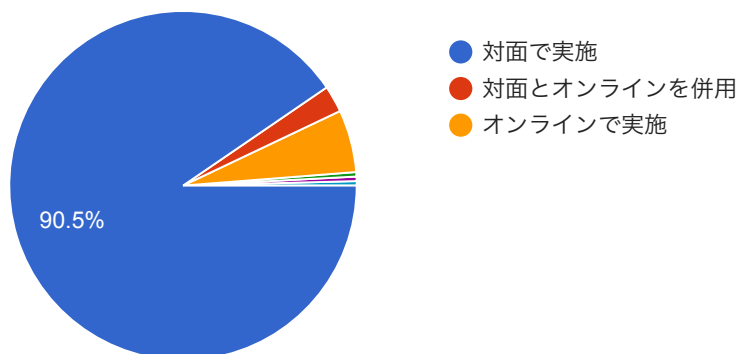
昨年度136件（56%）が答えた「4月」は、33件（31%）に減少し、日程を遅らせたことが伺えた。

2-4 「全面休止をした場合の代替案」には3件のみの回答。

2-5 講義の内容や時間数を変更したか？との問いには、7割弱（68%）の回答者が「変更なし」と答えた。

2-6 「変更あり」と回答した3割強（31%）の70件の回答のうち、
「授業の量（内容・コマ数）を減らした」が37件（53%）で最も多かった。次いで「オンライン講義やオンデマンド講義を実施」の回答が24件（34%）であった。

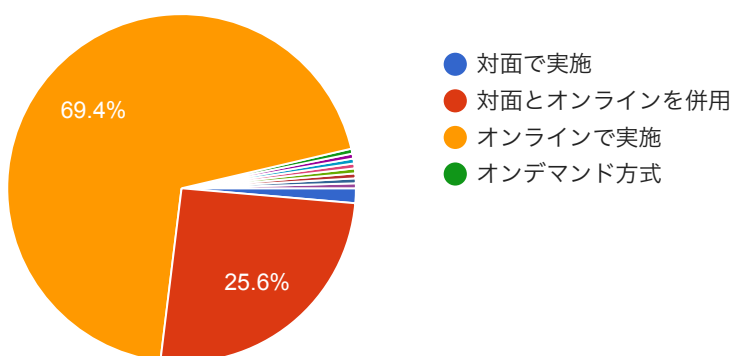
2-7 昨年度の講義の実施方法は、ほとんど（91%）が「対面で実施」と回答した。
 一方、約一割がコロナウイルス感染症拡大前からオンラインの講義を実施していた。



2-8 「対面とオンライン併用の場合の割合」には5件の回答のみ。

2-9 今年度は講義の実施方法を変更したか？については、「変更あり」が88%で、「変更なし」の11%を大きく上回った。

2-10 「変更あり」で最も多かったのは、「オンラインで実施」で約7割（69%）であった。
 次いで、対面とオンラインの併用が26%であった。多くの教員が昨年の対面での講義に比べて、今年度はオンライン講義を導入している状況が分かった。



2-11 「対面とオンラインの併用」におけるオンライン講義の割合として、100%オンラインは回答数69件のうち20件(30%)で最も多かった。次いで50%オンラインが11件(16%)であった。50%以上をオンライン講義とする回答者が8割（69件中55件、80%）であった。

2-12 「変更ありの場合の内容」として、ほとんどがオンラインの導入を挙げていた。

2-13 オンライン講義の配信方法は、225件の回答中、

「オンデマンド配信」36%

「ライブ配信とオンデマンド配信の併用」31%

「ライブ配信」30%

の3つにほぼ均等に分かれた。

2-14 ライブ配信講義の会議システムは、153件の回答中（複数選択可）、

「ZOOM」によるものが71%と全体の7割強を占めた。次いで「Microsoft Teams」（22%）と「Google Meet」（9%）と続いた。

2-15 オンデマンド配信講義の動画配信ソフトは、143件の回答中（複数選択可）、

「Microsoft Stream」21%

「YouTube」20%

「大学独自のシステム」14%

「Moodle」9%

と多岐に分かれた。

2-16 ライブ配信での講義における良い点として、129件の回答中

「チャット等を通して質問や意見を受け入れやすい」39件（30%）

「臨場感がある・双方向性である」28件（22%）

「準備が通常どおりで学生も好きな場所で受講できるので教員・学生双方にとって良い」28件 22%

などの自由回答が多かった。

2-17 ライブ配信での講義における悪い点としては、140件の回答中

「学生の反応が見えない・分かりづらい」62件（44%）

「ネット環境の脆弱さ・通信トラブルが多い」29件（21%）

で、この2つで全体の6割を占めた。

2-18 オンデマンド配信での講義における良い点として、135件の回答中

104件（77%）が「学生のペースで学習でき、何度でも再生できる（復習ができる）」をあげた。

2-19 オンデマンド配信での講義における悪い点として、132件の回答中

「コンテンツ作りに労力と時間がかかる」35件（27%）

「学生の理解度、反応がわからない」33件（25%）

「学生はいつでも視聴できるので後回しにして溜めてしまう」13件（10%）が続いた。

2-20 講義についての新たな工夫については、154件の回答中（複数選択可）

「WiFi環境の整備」54%

「講義室の増設による密集回避」 36%

「PCの学生への貸与」27%

「教科書や問題集の指定」17%

以上の4つの回答が多かった。

2-21 教科書・問題集について、237件の回答中

「指定している」回答者は46%、「指定していない」のは54%でほぼ半々であった。

2-22 指定の教科書・問題集を記入した122件の回答中

「標準生理学」26件（21%）

「基礎歯科生理学」15件（12%）

「コスタンゾ明解生理学」9件（7%）

「ギャノン生理学」7件（6%）

であった。

3. 実習の実施状況について

3-1 昨年度（2019年度）の実習の実施時期を回答した242件中、多かったのは、

「4月～」40件（17%）

「9月～」35件（15%）

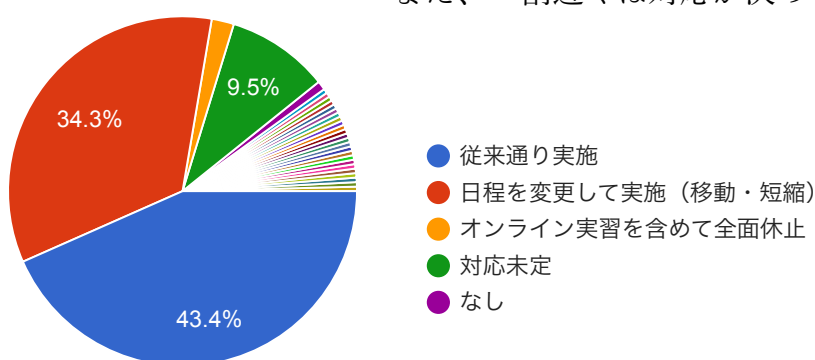
「11月～」25件（10%）

「10月～」22件（9%）

であった。

3-2 実習の実施時期を変更したか？については4割強（43%）の回答者が「従来通り実施」と答えた。次いで「日程を変更（移動・短縮）して実施」が34%であった。

また、一割近くは対応が決められていなかった。



3-3 「日程を変更して実施」を選択した場合、今年度（2020年度）の実習の実施時期について？、90件の回答があった。そのうち、

「5月」17名（19%）

「9月」14名（16%）

「12月」12名（13%）

の順であった。

昨年度40名（17%）が答えた「4月」は、6名（7%）に減少し、多くの大学で日程を遅らせたことが伺えた。

3-4 「全面中止」を選択した場合、代替案や実習単位認定の対応は？に対して、7名の回答があった。

2名が「課題を与えレポート」、その他は「講義を行った」、「映像を見せた」、「オンデマンド配信」、「動画配信+レポートで単位認定をした」、「レポート課題のみ」との記述があった。

3-5 昨年度の実習の実施方法は、回答者の多く（89%）が対面での実施と回答した。

3-6 対面とオンラインの併用の場合のオンライン実習の割合には、6名の回答があり、半数が50%と回答した。

3-7 今年度は実習方法・実習内容・時間数を変更したか？については、

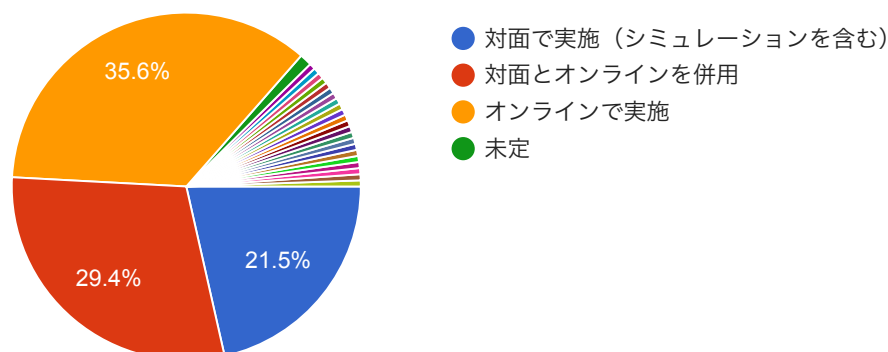
7割弱（67%）の回答者が「変更あり」と答えた。

「変更なし」は2割弱（19%）であった。

「対応が未定」である学校も14%あった。

3-8 「変更あり」の場合、177件の回答中、

「オンライン」で実施は36%で最も多く、次いで「対面とオンラインを併用」が29%であった。



3-9 「対面とオンラインを併用」の場合、57件の回答中

オンライン実習の割合で最も多いのは「50%」22件（39%）、

次いで「10%」7件（12%）でこの二つの回答で半分を占めた。その他はバラついていました。

3-10 実習で「変更あり」を選択した場合の変更点として138件の回答中、

「撮影したビデオを利用」47件（34%）

「(以前の) データの利用」10件（7%）

「シュミレーターの利用」6件（4%）

で、この3件で全体の5割弱を占めた。

3-11 オンライン実習の配信方法としては、125件の回答中、

「オンデマンド配信」46%

「ライブ配信」24%

「ライブ配信とオンデマンド配信の併用」20%

の順であった。

3-12 実習におけるライブ配信の会議システムは、73件の回答中、

「ZOOM」63%と全体の6割強を占めた。次いで

「Microsoft Teams」19%

「大学の e-learning システム」、「Cisco WebEx」、「Google Meet」の三者が共に5%程度であった。

3-13 実習におけるオンデマンドの動画配信ソフトは、70件の回答中、

「Microsoft Stream」27%

「YouTube」19%

「大学のLMS (大学指定の～、大学独自の～なども含める)」11%

「Moodle」が7%

「Google Drive」3%

「Webclass」3%

と多岐に分かれた。

3-14 ライブ配信での実習における良い点として36件の有効な自由回答を得た。

その中で、「学生からの質問も含めて双方向性である」が8件、

「リアルタイムで学生とのやり取りができる」が6件と多かった。

3-15 ライブ配信での実習における悪い点として54件の自由回答があった。

その中で「実際に学生が手を動かさないので実感が伴わない」に代表される“実験を経験できない”が26件（48%）と半数を占めた。

また、「通信環境の不具合や制限」に対するコメントが6（11%）件あった。

3-16 オンデマンド配信での実習における良い点として50件の自由回答があった。

その中で、「学生が自分にあったペースで実習ができる」、「繰り返し見られる」など「自由度・反復学習効果」に関するコメントが30件（60%）あった。

また、「特になし」が12件（24%）でその中には、「するべきではない」「授業とは言えない」等の厳しいコメントが複数あった。

3-17 オンデマンド配信での実習における悪い点として55件の自由回答があった。

その中で、「実際に体験していない」など「リアリティ・臨場感の欠如」を指摘したものは29件（53%）で半数を占めた。

「視聴したか不明」、「双方向性ではない」などの「学生からの反応の難しさ」に関するコメントが7件（13%）あった。

3-18 実習についての新たな工夫では、6割以上（64%）の回答者が「実習班の人数の変更」を行っていた。次いで

「実習室の増設による密集回避」44%

「WiFi環境の整備」25%

「PCの学生への貸与」8%が続いた。

4. 成績評価・単位認定の状況について

4-1 昨年度（2019年度）の講義の成績評価の方法については、242件の回答中、

「定期試験」が圧倒的に多く92%であった。

その他、「授業ごとの小テスト」、「レポート試験・紙媒体での提出」、「出席点」がそれぞれ20%程度であった。

4-2 講義の成績評価の方法を変更したかという問いに対して、半数が「従来通り実施」したが、4割強（43%）の回答者が「変更して実施」と回答した。

4-3 「変更して実施」における成績評価の方法については、134件の回答中

「対面による定期試験（通常の設定問解答式試験）」が56%で最も多かった。

次いで、「レポート試験 電子媒体での提出」が46%、「授業ごとの小テスト+オンライン」が40%と続いた。「オンラインによる定期試験（通常の設定問解答式試験）」も22%の回答があった。

4-4 「実施せず」の場合の理由と単位認定方法について、3件の回答があった。

4-5 講義の成績評価や不正行為防止についての新たな工夫として、114件の回答中、

6割以上（66%）が「試験室の増設による密集回避」をあげた。

次いで、「評価範囲の変更」と「WiFi環境の整備」がそれぞれ7%であった。

残りは約1%ずつ多岐にわたっていた。

4-6 昨年度の実習の成績評価の方法として、242件の解答があった。

「レポート試験 紙媒体での提出」が173件（72%）で最も多かった。次いで

「対面による定期試験（通常の設定問解答式試験）」78件（32%）、

「出席点」が71件（29%）

であった。

このうち、一つの方法のみで評価したのは94件（39%）で、その方法として「レポート試験 紙媒体での提出」が最も多く75%であった。

一方、複数の方法を組み合わせて評価したのは132件（55%）で、「レポート試験 紙媒体での提出」と「出席」を含む組み合わせが54件（41%）と最も多かった。

4-7 実習の成績評価の方法を変更したかとの問いには、「従来通り実施」（37%）と「変更して実施」（38%）とほぼ同数であった。アンケート回答時点で16%が「対応未定」との回答であった。

4-8 「変更して実施」における今年度の実習の成績評価の方法については、114 件の回答中、「レポート試験 電子媒体での提出」だけで評価したのが 41 件（36%）で最も多かった。次いで「レポート試験 電子媒体での提出」と「出席点」を組み合わせて評価したのが 16 件（14%）であった。その他、「対面による定期試験（通常の設定問解答式試験）」と「レポート試験 電子媒体での提出」の組み合わせなど多岐にわたった。

4-8 「実施せずの場合の理由と単位認定方法」については、5 件の回答があった。

4-10 実習の成績評価や不正行為防止についての新たな工夫として、61 件の回答中、半数以上（53%）が「試験室の増設による密集回避」をあげた。次いで、「評価範囲の変更」が 26%、「WiFi 環境の整備」が 15%であった。残りは少数意見として多岐にわたっていた。

5. 出席確認の実施状況について

5-1 昨年度の講義の出欠確認で「確認あり」が86%であったが、「確認なし」も14%であった。

5-2 「確認あり」の場合、その方法について 207 件の回答があった。

「出席カード・出席簿への記名」が最も多く 57 件 (27.5%)、次いで

「カードリーダー」33 件 (16%)

「点呼・目視」26 件 (13%)

「大学での出席管理システム」26 件 (13%)

「顔認証システム」によるものも 2 件あった。他は少数で多岐にわたった。

5-3 講義の出欠確認を変更したか、について「変更あり」は7割(72%)で「変更なし」は23%であった。

5-4 「変更あり」の場合、今年度の講義の出欠確認は、187 件の回答中、「確認あり」が8割弱(79%)で、「確認なし」は21%であった。

5-5 「確認あり」の場合、その方法として、152 件の自由回答のうち、Zoom などの「オンラインでのログイン記録やチャット等による確認」が46件(30%)、「オンラインでの小テスト等による確認」が32件(21%)であった。その他、「配信資料や配信動画の視聴を確認」等多岐に渡った。

5-6 昨年度の実習の出欠確認で「確認あり」が圧倒的に多く89%であったが、「確認なし」も11%であった。

5-7 「確認あり」の場合、その方法は209 件の回答のうち、「対面で確認」も含めた「点呼」が圧倒的に多く162件(78%)であった。次いで「レポート」(7件, 3%)、「大学の出席管理システム」(6件, 3%)が続いた。

5-8 実習の出欠確認を変更したかという問いに対して、「変更なし」(38%)と「変更あり」(36%)はほぼ同数であった。アンケート回答時点で19%が「対応未定」との回答であった。

5-9 「変更あり」の場合、今年度の実習の出欠確認は、108 件の回答中、「確認あり」が8割強(82%)で、「確認なし」は19%であった。

5-10 「確認あり」の場合、その方法として、90 件の自由回答中、ZOOM などの「オンラインを利用」が34件(38%)、「レポート提出」が18件(20%)、「小テスト」が7件(8%)

であった。

5-11 昨年度の試験の出欠確認で「確認あり」が88%であった。

5-12 「確認あり」の場合、その方法は、有効な回答 201 件中、「解答用紙の提出」と「対面での確認・点呼」がほぼ同数（それぞれ約 40 件, 20%）であった。次いで「学生証の提示」が 32 件（16%）、「指定されている座席表との照合」が 27 件（13%）であった。他に「目視確認」（7 件）という回答もあった。

5-13 今年度試験の出欠確認を変更したかという問いに対して、「変更なし」（72%）の方が「変更あり」（14%）より多かった。

5-14 「変更あり」の場合、今年度の試験の出欠確認は、58 件の回答中、「確認あり」が全体の 3/4 の 74%で、「確認なし」は 1/4 の 26%であった。

5-15 「確認あり」の場合、その方法として、47 件の自由回答のうち、「オンラインを利用」が 16 件（34%）、「解答の提出」が 14 件（30%）であった。14 件の「解答の提出」のうち半分の 7 件が「オンラインによる提出」、2 件が「メールによる提出」であった。

6. その他について

6-1 新型コロナ収束後も変更した講義・実習・試験の内容を活用したいか?という問いに対して半数の50%の回答者が「活用していきたい」と答えた。

「活用したくない（従来の形に戻したい）」も1/4の24%であった。

アンケートの時点で「分からない」との回答は15%であった。

6-2 今年度の講義・実習・試験についての自由記述（学生の評判、理解度、準備の大変さなど）では150件の自由回答のうち、（どちらかというと）ポジティブな回答：55件、（どちらかというと）ネガティブな回答：53件とほぼ同数であった。また、今後の検討課題などを示してくれたものが、26件あった。

代表的と思われる回答を以下のカテゴリで分類した。

学生の評判

ポジティブな回答

- ✓ 音声を吹き込んで動画にしたオンデマンド授業は、意外と学生の評判は良い。自分の都合で授業が進められる点が良いそうです。
- ✓ オンデマンドでの講義ビデオの配信は学生の評価が高いので継続したい。
- ✓ 何度も視聴できるため、学生に大変好評。
- ✓ オンラインの講義は、想像していたよりも学生の評判は良かったように思います。
- ✓ オンライン講義の学生からの評判は例年以上に高かった。
- ✓ オンライン講義はスライドが見やすく、声も聞き取りやすい点では評判が良い。
- ✓ オンライン授業は学生に好評だった。授業に集中できる、通学に時間を取られないので自学自習が出来る、等の感想を学生から得ている。
- ✓ 「授業に対する総合的満足度」が、昨年度の 3.89 ± 0.91 から、今年度は 4.65 ± 0.57 に上昇した。これは、講義に不満をもつ学生の数、今年度のオンデマンドビデオ講義によって、著しく減少したことを示す。オンデマンドビデオによる講義のほうが、対面講義よりも学生の評判がよいというアンケート結果は、驚きだった。
- ✓ 講義自体はすべてうまくでき、学生からも、個別に質問しやすい環境であったのがオンライン授業の利点であると感じた。
- ✓ 学生が集中して聞くことができたと概ね好評。
- ✓ ポジティブな感想が多く、対面でやっているときより学生の反応が良かったのは意外だった。
- ✓ 時間が有効活用できる、電子ファイルでレジメが見れるのは便利だ、と学生には評判が良かった。
- ✓ 自己学習の比重が大きいオンデマンドの方が従来型よりも学生評価が高かった。
- ✓ 対面授業と同じ内容のはずですが、オンライン授業の方がかなり満足度が高いのが新たな発見です。
- ✓ 遠隔講義でも可という消極的肯定意見が多いと感じた。

- ✓ 例年やっているパワーポイントの授業をビデオに撮って YouTube に限定公開であったが、学生からのアンケート結果では予想外に好評でした。
- ✓ 講義に関して、対面に戻る必要がない、というコメントも多い。

ネガティブな回答

- ✓ 一日中オンライン講義だと、学生によっては集中力が切れ、従来の対面講義の方が良いという学生も一定数いた。
- ✓ 学生からは強い不満が出ている。
- ✓ 学生の評判は、実習については悪い。
- ✓ 学生の評判は悪い。
- ✓ 大学は教えてもらえる所と勘違いして、オンデマンド講義に不満を訴えてくる。
- ✓ オンラインになかなか繋がらない、その都度の質問がしにくい、という学生の声もあった。
- ✓ 遠隔では集中力が維持しにくく対面講義を希望する意見もあった。
- ✓ 当初はオンライン講義は手探り状態であったため、オンデマンド配信の形を取ったが、学生から不評であった。
- ✓ 対面講義に比べると学生からは不評であるし、休学者が増えている。

理解度

ポジティブな回答

- ✓ オンライン講義でも理解度は落ちていなかった。
- ✓ 学生の理解度も、例年と遜色ない印象を持っている。
- ✓ 学生側から質問が増えた。理解度も上がっている。
- ✓ 講義資料と動画の配信によるオンデマンド講義を行ったが、対面講義を行っていた昨年度までと比べて試験の成績が悪いということはなくむしろ理解度は上がっているようにも感じた。
- ✓ 理解度は上がったように思える。質問(チャット)も増えた。
- ✓ 定期試験の結果では学生の理解度は例年より落ちている訳ではなかった。
- ✓ 学生の理解度は従来より高く、試験の出来は良かった。

ネガティブな回答

- ✓ オンラインなので理解度は対面授業よりよくないかも知れない。学生の理解度が分からない。
- ✓ オンライン講義の理解度低下が懸念される。
- ✓ オンライン講義を行った範囲は理解度が低い印象あり。
- ✓ 学生同士や学生と教員の講義外でのコミュニケーションが減ることによって、理解度や、学んだことの応用力が落ちるのではないかと危惧している。
- ✓ 学生のレベルによって大きく受講効果（理解度）が違うような印象を受けた（理解度

の差が多くなった)。

- ✓ 講義に関しては、理解度が低下したと考えられる（試験結果より）。
- ✓ 今年度は対面での講義ではないので、理解度が悪いと思います。
- ✓ 理解度を推し量るのはオンラインでは困難である。
- ✓ 理解度が不十分な学生がいることが判明した。
- ✓ これまでの対面での講義では学生の表情や質問によって理解度などが分かりましたが、今年ほどの程度理解したかが分かり難いです。

準備・実施

ポジティブな回答

- ✓ 理解度の把握のための小テスト、レポート課題は圧倒的にオンラインの方が時間のロスが少なく、管理しやすい。オンラインが優れている。
- ✓ オンデマンドでの講義ビデオの配信は学生の評価が高いため継続したい。
- ✓ オンデマンド型オンライン化により、知識の補填は可能であり、むしろ効率的ともいえる。
- ✓ E-メールや Teams のチャット等で学生の個人的な質問への応答を学生全員に行うことはこれまでにないと思う。
- ✓ テレワークでも応答可能であることから、良いことだと思う。
- ✓ 講義に合わせて、meet の中に復習問題（択一問題、穴埋め問題）を準備したのは好評でした。
- ✓ オンラインの有効性が確認できた。
- ✓ チャットで質問できるせいか、例年よりむしろ質問等が多く、反応が多い。
- ✓ 講義自体はすべてうまくでき、学生からも、個別に質問しやすい環境であったのがオンライン授業の利点であると感じた。
- ✓ 教員としては、教育内容を振り返る機会にはなった。
- ✓ 講義の Web 化、IT 化には一定の意義があると思います。伝える技術の涵養にもなります。
- ✓ 講義は Zoom で全く問題ないので、今後も継続してもよいかと考えている。
- ✓ 今回の資料を今後も使うのであれば、来年以降は準備が楽になると思われる。

ネガティブな回答

- ✓ 準備が大変。準備に多くの時間を費やした。（同様の回答が 44 件）。
- ✓ また効果的なオンライン動画の作成方法を知りたいと思った。
- ✓ 準備に要する労力は大きかった。質問や要望など、学生とのやりとりは、昨年度より圧倒的に多い。
- ✓ 授業前は準備に追われ（絶対確実に VOD が行える環境の選定を含め）、授業期間中はひたすら小テストの採点と質問への返答に追われていた。
- ✓ 教員の PC 環境整備などの個人の支出が大幅に増加した。

- ✓ 試験の実施などについて、さまざまなことを考慮しなければならず、大変だった。
- ✓ 資料と解説文を作るのが大変、毎回の課題に対する個々の学生へのフィードバックも大変。
- ✓ ライブ授業では授業自体の負担はかわらないが、学生の通信環境へのフォローや、質問等がしやすいため、授業内容やソフトの使い方（特に最初のうち）などまで、問い合わせが来るため、その説明に時間を要する。
- ✓ オンデマンドは、授業資料の作成や学生からの提出物への回答などに、対面以上に時間を要する。
- ✓ 遠隔授業の設備やノウハウがなかった。
- ✓ オンライン試験の公正性を維持できない。
- ✓ オンライン授業は保護者の評判が良くない。
- ✓ 教員にとっても、オンライン講義は苦痛である。
- ✓ リモート講義対応出来ない（教育効果など鑑みて、そうする気のない）教授が多数おり、コマ振り替えで学生の夏休みが潰れた。

今後の検討課題など

- ✓ 閲覧していない学生など、一部の”応答の見えない”について大学がどこまでプッシュしていく必要があるのかが課題となる。
- ✓ 定期試験の不正対策が大きな課題だと思います。
- ✓ 保護者の理解を得られるかどうか肝心だ。
- ✓ 大学のオンラインシステムは非常に充実しているので、ぜひ来年度以降もこれを使いこなして、学生にとっても充実した真に力をつく講義を提供したい。
- ✓ また後に残るため著作権の対応にも従来以上に気を遣う必要があった。
- ✓ オンライン授業を実施しなければならない時、テュートリアルや実習をどのように実施すれば良いか工夫が必要。
- ✓ 一部の学生でコンピュータ機器や通信技術的な部分でオンライン講義について来れていない部分があったようで、こういったところのフォローも必要。
- ✓ また効果的なオンライン動画の作成方法を知りたいと思った。
- ✓ 多くの方法で、学生に情報が行くので、それに対応できない学生がいるように見受けられる。そういった学生への対応をどうするかを考えることの必要性を感じた。
- ✓ 国レベルでの通信環境整備や学生の受講環境の向上（スマートフォンではなくパソコンやタブレットでの聴講、自宅のWiFi環境整備）など、改善すべき課題が多いと感じた。
- ✓ 実際に手を動かさないオンライン実習は学生からの評判が悪いため、今後改善が必要。
- ✓ 対面とオンラインの良い点を活用していきたい。例えば、対面授業であってもパワーポイントを作り込んでzoomに録画し、後に動画アーカイブを公開するなど。
- ✓ 対面講義による臨場感が全く失われてしまったので、早く元にもどりたい。
- ✓ グループ学習・討論に使えるオンラインシステムがほしい。

- ✓ 遠隔講義では、学生が自習できるオンライン教材を充実させることが大切と思う。
- ✓ 本学ではほとんどの授業をシラバスに則って、オンライン（ライブ・オンデマンド）で行い、受講確認のため多くの課題が出されたことで学生にかなりの負担があり、課題の量や質の改善が求められている。
- ✓ オンラインは通学の時間を有効活用できるという学生も多くいる一方で、学生の様子から臨機応変な対応ができるという点で対面を望む学生もいる。どちらにも一長一短があるので、それぞれのよい点を上手く活用できるように工夫したい。

6-3 学生に感染者が出た場合の対応についてでは、有効な 96 件の自由回答のうち、「PCR 検査の実施」(4 件)や「登(入)校禁止」(11 件)、「濃厚接触者の確認」(16 件)、「オンライン授業の完全移行」(12 件)など具体的な記述が半数近くの 43 件(45%)であった。次いで「大学の規定に従う」が 31 件(32%)であった。

共有したい情報の自由記述

41 件の自由回答のうち、代表的と思われる回答を記した。

- ✓ オンラインでの実習内容と実習に関するビデオ教材の共有。(同様の回答が他に 9 件)
- ✓ これを機に日本生理学会でオンライン教材を作成すると良いと感じた。そのオンライン教材をもとに、各大学で対面の講義を持つと学習効果が上がると考える。(同様の回答が他に 4 件)
- ✓ オンラインでの実習でどのような工夫ができるか。(同様の回答が他に 3 件)
- ✓ オンデマンド配信の講義資料に借用した図などの著作権が心配。無料配布できる講義用資料のライブラリーが学会の HP 内にあれば助かる。(同様の回答が他に 2 件)
- ✓ with コロナ時代のオンライン授業も考慮した教育講演を生理学会で企画してもよいのではないのでしょうか。(同様の回答が他に 1 件)
- ✓ オンライン講義でのトラブルの有無など。
- ✓ 学生・教員の感染状況

以上